



## いつも笑顔で やる気、根気、元気!

所属会派：清風クラブ  
環境厚生常任委員会委員長  
平塚市廃棄物対策審議会委員  
神奈川県後期高齢社医療広域連合議会議員

2019年春の統一地方選挙からいただいた任に残り半年となりました。新型コロナウイルス感染症・COVID-19の出現により、これまでとは異なる観点からの議論に時間を費やしました。

コロナ禍をプラスに捉え、多様な生き方の選択がさらに尊重される社会を目指して、まちづくりに引き続き邁進してまいります。

令和4年8月26日から9月21日まで、9月定例会が開催されました。総括質問（一問一答方式・質問時間25分）の質疑応答の一部を抜粋し、編集してご報告します。ひらつか議会だより第225号（11月4日発行）と併せてご一読ください。詳細は平塚市議会HPから、会議録を閲覧ください。9月定例会会議録は11月22日頃に公開予定です。

<https://www.city.hiratsuka.kanagawa.dbsr.jp/index.php/>

### 不登校児童生徒への対応

去る6月10日に文部科学省より「不登校に関する調査研究協力者会議報告書～今後の不登校児童生徒への学習機会と支援の在り方について～」（以下、報告書）の通知が出された。限られた義務教育の期間で、学校生活に馴染まない児童生徒が、どこで、どう時間を重ねているのか、「学校復帰よりも社会的自立を」と目指した教育が本市でどのように取り組まれているのか、不登校児童生徒を取り巻く環境等について、以下、質問する。

**問** 不登校の定義について伺う。

**教育長** 文部科学省では、「何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にある者、但し、病気や経済的な理由による者を除く」と定義している。

**問** 本市では継続して「月3日欠席調査」を実施している。その目的と、どのような調査をしているのか伺う。

**教育長** 市教育委員会では、不登校に関する小・中学校の状況把握を図り、登校支援が必要な児童・生徒に関する早期対応、及びチーム支援の充実を図ることを目的とし、「月3日欠席調査」を実施している。各学校では、月ごとに3日以上欠席した児童生徒を累積集計し、その調査結果をもとに支援が必要な児童生徒に対応している。

また、市教育委員会は、報告された調査結果をもとに各学校の欠席者状況や対応について把握をし、学校と連携しながら登校支援を図っている。

次ページに続く→

**問** この報告書には、今後重点的に実施すべき施策の方向性が4点示されている。

- ①誰一人取り残さない学校づくり
- ②不登校傾向のある児童生徒に関する支援ニーズの早期把握
- ③不登校児童生徒の多様な教育機会の確保
- ④不登校児童生徒の社会的自立を目指した中長期的な支援

これまで小中学校の現場で、どのように共有を図られてきたのか、また、今後どのように対応していくのか伺う。

**教育長** 小中学校に対しては、不登校対策で学校と外部機関が連携し取り組んだ好事例を活用した研修、各校の取り組みの情報交換や講師を招聘した講義の実施により、共有を図っている。

今後の対応については、報告書の内容を精査し、諸事業に活かしていくとともに、タブレット端末を効果的に活用する等、これまでの取り組みをさらに充実させていきたい。

**問** フリースクール等、市内外を問わずに通う本市の児童・生徒についてどのように把握されているのか伺う。

**教育長** 学校では、不登校の児童生徒及び保護者との教育相談や家庭訪問・電話連絡を行っており、その際の保護者からの申し出により把握している。市教育委員会では、学校への月3日欠席調査での聞き取りの際、フリースクールに通う児童生徒について報告があった場合に把握している。

◇平塚市の状況

①登校しなかった日数の合計が年間30日以上

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
小学生	98人	119人	147人
中学生	251人	252人	290人

②令和3年度・相談件数

	来室相談		電話相談	
	児童・保護者教職員	生徒・保護者教職員	小学校	中学校
スクールカウンセラー	1,407件	2,520件	77件	224件
教育相談センター	51件(小学生)	105件(中学生)	118件	

一問一答による再質問

**問** 文部科学省では年間30日以上欠席した者を不登校と定義しており、本市の不登校の人数は年々増えている。学校生活の一年間の半分以上にあたる、年間90日以上欠席している児童生徒の現状について伺う。

**学校教育部長** 小学校で、平成30年度52人、令和元年度55人、令和2年度65人となっている。中学校では、平成30年度183人、令和元年度174人、令和2年度が212人という現状になっている。

**問** 月3日欠席調査は本市独自の取り組みであり、この調査を始めてから丸10年が経過している。この効果について伺う。

**学校教育部長** 月3日欠席した児童生徒に対して、例えば、その子が病気やけがで欠席しているのか、それとも別の理由で欠席しているのかについて、まずは担当が把握しているが、それだけであると担任だけの対応になってしまう。それよりも学校が組織として対応していくことが基本であるので、この調査については教育委員会の担当指導主事が原則、教頭先生に、何年何組の子はどのような欠席の理由かということを問い合わせている。当然、学校ではその教頭先生が、その子の欠席の理由について担任に確認するので、そこで学校内での会話が生まれて、この子にはこういう支援が必要なのではないか、こういうことが大事なのではないかということをもまずは学校でやっていただく。それを教育委員会が受けて、教育委員会なりの視点で学校対応の良いところ、また欠けている点をアドバイスするなど連携に努めている。

学校では欠席について組織として対応することが定着してきた点が、この十年間の効果と考える。それを受けて、教育委員会でもどのような支援が必要なのかを常に考えている点が効果と認識している。



**問** 長野県上田市では、3つのNPOが共同して、月に2回、映画館で無料上映会を開催し、参加した児童生徒を出席扱いにする柔軟な対応がされている。市民がそういった居場所を作って、児童生徒が参加しやすい環境を整えている。本市でも、不登校の相談に乗っている市民活動団体や、不登校ひきこもりの若者を対象としたNPO団体がある。学校と保護者とのやりとり以外に、そういった不登校児童生徒に関わっている第3の市民、団体とも平場で意見交換をしていく必要があると思うが、この点について見解を伺う。

**学校教育部長** ご指摘の通り、学校と保護者等の間、教育委員会の間だけではなく、そういう支援団体の方からの意見を聞くことは大変重要なことだと思っている。平塚市教育委員会での会議を開くことについては即答できませんが、ただそういう視点をしっかり持って、この会のどのようなところだったら、そういうような話がお聞きできるのかということを担当課の方とも今後しっかりと研究をしていきたいと考えている。



第84回 全国都市問題会議 2022年10月13日・14日 (長崎市・出島メッセ長崎)  
テーマ：個性を活かして「選ばれる」まちづくり～何度も訪れたい場所になるために～

【基調講演】民間主導の地域創生の重要性

株式会社ジャパネットホールディングス・代表取締役社長兼 CEO 高田旭人氏

- ・行政は市民が平等公平に恩恵を受けられる環境づくりを担い、民間企業の役割は「幸福の最大化」と考えている。
- ・長崎市の転出超過の現状とどう向き合っていくのか。
- ・前例にとらわれずにやりたい事に取り組んでいく、それが民間の強みではないか。

◆長崎市の転出超過の現状

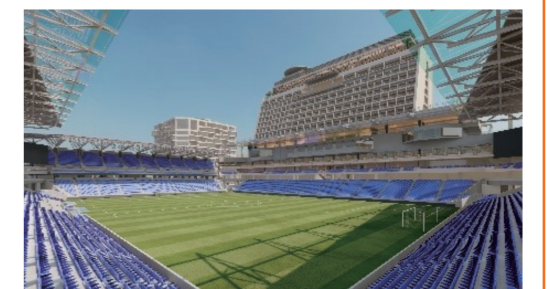
2021年	全国2位	2,194人
2020年	全国2位	2,025人
2019年	全国1位	2,772人
2018年	全国1位	2,376人
2017年	全国3位	-

◇予定長崎スタジアムシティプロジェクトの概要◇

商業施設90店舗、オフィス3,900㎡、アリーナ席6,000席、スタジアム20,000席、ホテル245室、医療ツーリズムなども含む事業を展開予定。

【こうなるはず！】

- スタジアムで美味しいビールを作れば、公共交通機関を利用する来場者が増え、渋滞が緩和するはず！
- サッカー・バスケットの特集番組を制作し、スタジアム内で試合の前後に放送すれば、「1日楽しめる場所」としてスタジアムシティが広がり、交通渋滞回避に繋がるはず！
- サッカー・バスケットを習いながら、英語も学べるスクールを設置したら、子どもも楽しみながら学べるはず！
- スタジアム・アリーナを活用し、会議室などを共同利用することで賃貸面積が少なくても快適なオフィスを実現し、入居企業は賃貸料を抑えることができるはず！



写真：ジャパネットホールディングスHPより



【所見】

「個人に依存しない社風を培う」、「社員が会社を好きになる取り組み」を実践し、地元へ貢献するビジネスモデルについての講演に惹きこまれました。

次ページに続く→

## 【主報告】長崎市の魅力あるまちづくり

長崎市長・田上富久氏

### 「まち」の価値とは？

- ①自らがみつける＝発見
- ②気付く＝認知
- ③磨く＝向上・付加
- ④生み出す＝創造

#### ◇ドイツに視察に行って気づかされた◇

例えば、温泉地の別府vs 湯布院（由布院）、別府温泉の「賑やかさ」に負けているとばかり思っていたが、実は湯布院の「静けさ」には別の価値があると気づけた。



平和公園



浦上天主堂



興福寺



### 【「長崎さるく(まち歩き)」、さまざま取り組んでみたから言えること】

※「さるく」とはぶらぶら歩くということ

- ⇒ できないと思うけどやる。できない事をできないで終わらせないことがポイント！
- ⇒ まちのOS (Operating System) ・ソフトを書き換えていく
- ⇒ 「地域課題」が「資源」になるという発想の転換
- ⇒ そのまちに根づき、暮らす「土の人」と、そのまちを訪れる「風の人」の交流が欠かせない

### 【所見】

田上市長は市職員出身者で、現場で市民と共に汗を掻いてきたことが伝わってくるお話でした。平塚の価値、ここに住む私たちは気づいているだろうか。じっとしては変わらない。私たちが課題と思う点を共有し、このまちの魅力に気付いて、さらに磨いていきたい。



## 佐藤たかこの政務活動費の総まとめ

	支給額	研究研修費	調査旅費	資料購入費	広報費	広聴費	事務費・その他経費	合計	返還金
2019年4月	50,000	0	0	2,950	4,320	0	9,529	16,799	33,201
2019年5月～2020年3月	550,000	132,660	0	39,450	275,000	0	109,285	556,395	0
2020年度	600,000	0	1,680	45,540	300,000	0	109,588	456,808	143,192
2021年度	600,000	15,120	840	47,510	300,000	0	94,171	457,651	142,359
2022年度9月現在	600,000	0	0	17,700	300,000	0	54,465	372,165	-

## 最後に

安倍晋三元首相が凶弾により命を落とし、特定の宗教団体と政治家の関係がクローズアップされています。家族が宗教団体に属することで、精神的、経済的に影響を受けてきた方々の声に向き合い、且つ、特定の宗教団体に属していても有権者にならない事実とどう向き合っていくか。排除は問題の解決にはならない。ひとり一人が考えて、投じる行動が大切だとあらためて考えています。

とてもアナログな佐藤たかこが、ブログやホームページを展開しています。

「佐藤たかこ 平塚」で検索し、是非、ご覧ください！

佐藤たかこ 平塚

検索



HP



Facebook



ご意見・ご質問、応援メッセージは、E-mail : takatan.kike@md.scn-net.ne.jp

又は Fax : 0463-21-7600 にてお知らせください。